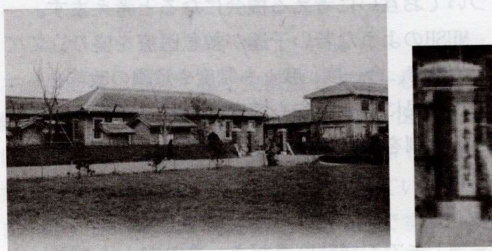


随 筆

みなさん！津衛戍病院をご存知？ えいじゅ

飯 田 良 樹 (久居一志地区)



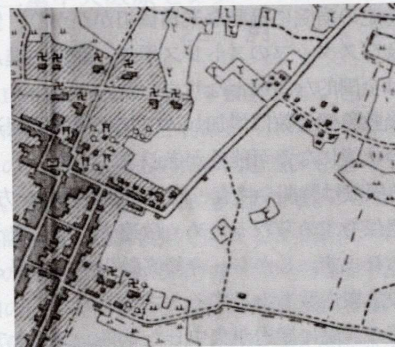
上のような絵葉書が手に入った。正門の看板に津衛戍病院と書かれているが、衛戍とは何を意味しているのかなと辞書を引いてみた。「衛戍（えいじゅ）とは、大日本帝国陸軍において、陸軍軍隊が永久に一つの地に配備駐屯することをいう。」そうか、久居に戦前、第33連隊があり、その関係の病院と判明した。

では駅前にあった元国立津病院との関係は？資料がないか探してみると、同級生の工藤 眞先生が『三重中央だより』（平成26年11月、第65号）に三重中央病院の歴史を書いておられた。また、国立津病院時代に『国立津病院 45年の歩み』を出版されていた。

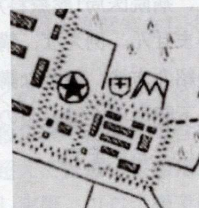
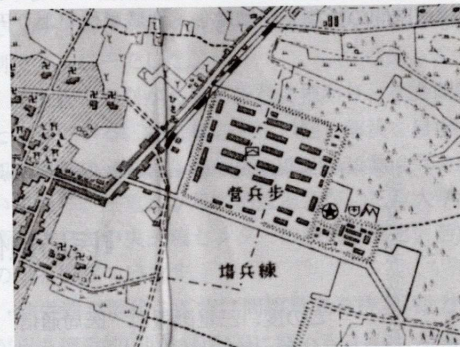
2つの資料から歴史をたどってみると、明治41年11月21日久居町に津歩兵第51連隊が出来、併設病院として津衛戍病院が出来た。大正14年軍縮により第51連隊が廃止、第33連隊が守山から久居に転営。昭和11年津陸軍病院に改称。昭和20年の敗戦で国立津病院と改称。昭和24年9月外来診療棟火災で、昭和25年1月使用していない旧連隊兵舎で外来診療開始。昭和26年10月旧連隊兵舎を病棟に使用。昭和27年7月警察予備隊（現陸上自衛隊）が久居に駐屯。

以降は皆さんご存知だと思いますので省略いたします。

では、津衛戍病院が連隊のどの位置に配置されていたのかな？との疑問で所蔵の古地図を見てみた。

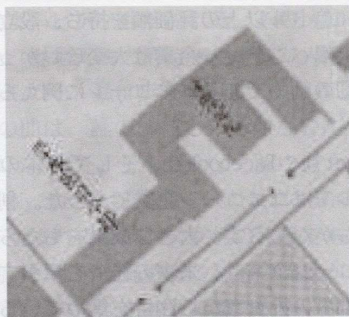
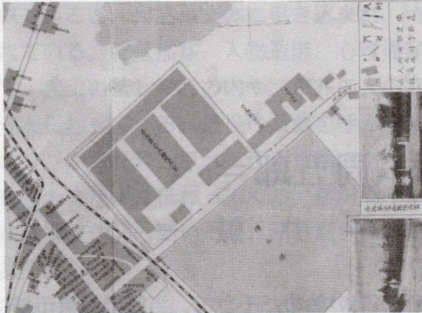


明治31年「大日本帝国陸地測量部」の地図には広く田畑が広がっている。



明治44年「大日本帝国陸地測量部」には、明治41年津歩兵第51連隊（後の第33連隊）の病院として津衛戍（えいじゅ）病院が井戸山に建てられているのがわかる。久居の町並みはほとんど変化がないが、地図の左は明治41年11月10日に聖天前から久居までの中勢鉄道が引かれ久居駅が出来、また歩兵51連隊が出来たので道路の増設や人家が増えている。軍関係では明治42年9月中射場に遊郭、

明治43年3月西鷹跡に将校住宅が出来た。



昭和6年「久居町畧圖」でも津衛戍病院と連隊宿舎や旅団司令部との関係がわかる。



昭和48年「津市周辺地域図」



昭和60年 エリアマップ「津・久居市」

昭和27年7月第33連隊の跡地に警察予備隊が駐屯し、お互いに棲み分けたのがわかる。また、津衛戍病院があった場所には現在、合同宿舎久居東が建っている。

この絵葉書は6月末に発行される樹林舎『津市の今昔』に掲載される。

以上、古写真を入手したお蔭で私の知らなかった事が勉強できた。

皆さんも、図書館やホームページを活用されて歴史をたどってみると面白いですよ。

追記：

もう一枚の写真も入手している。

「歩兵五十一連隊衛戍病院」（金青堂発行）と写真下に印刷されている。門柱には看板が掛けられているが判読出来ない。発行は地元の金青堂であり、書店だけではなく、地図や写真を当時は発行していた。

